



日本の水球界で、その名を知らない人はいない4きょうだいがいる。中心にいるのは、日本代表の絶対的なエースに成長した稲場悠介(19)(ブルボンウォーターポロクラブ柏崎IIブルボンKZ)だ。東京五輪出場は「世界一の選手になるための通過点」と、気負いは全くない。

きょうだいは、3番目の悠介と兄航平(23)(ブルボンKZ)、姉朱里(21)(千葉・秀明大4年)、妹晴香(17)(富山北部高2年)。いずれもブル代表や世代別代表に選ばれた実績がある。

悠介の成長に欠かせない存在が、航平だった。5学年差の2人が少年時代に一緒にプレーしたことはほとんどない。小学1年で競技を始めた悠介にとって、6年で中学生のクラブで練習する兄は遠い存在だった。

背中を追うように、週4日の練習日以外も兄のクラブに

海外修業 兄超えたくて

水球 稲場悠介さん19

× 航平さん23 × 朱里さん21 × 晴香さん17

4きょうだいで互いに刺激

通った。才能はすぐに開花。主要大会では個人でもチームでもタイトルを総なめにした。兄は、憧れから超えたい存在になった。航平が2016年に大学3年で日本代表に選ばれると、喜ぶより先に悔しかった。

「世界一の選手になるには、

今動かないと。高校2年の冬、兄に「先を越された」悠介は単身、強豪国のモンテネグロに渡った。武器だったシュート技術やスピードは、海外でもまれてさらに磨かれた。3か月後に帰国すると、兄と入れ替わる形で代表に選ばれた。

「きょうだいで一人、次元が違う。代表でも絶対欠かせない存在になっていく」。左サイドでポジションを争う航平は、その実力を誰よりも認める。悠介は18年のワールドリーグやアジア大会で得点王に輝き代表の主力となった。

兄、弟とともに東京五輪出場を目指す朱里は「家では仲がいい兄弟だけど、水に入るとライバル関係になる」と話す。ただ、同じ競技者として、調子を落としたり競技人生に悩んだりしたときは、自然に連絡を取り合う。末っ子の晴香も「お互いに高め合っている。刺激になる。兄と姉のように自分もいつか五輪に出られる選手になりたい」と言う。

代表の座を譲った航平も黙ってはいない。東京、その次のパリ五輪も視野に入れ、18年から海外のプロリーグにも身を投じている。「何年も前からきょうだいで五輪」と話していた。可能性はゼロではない」と誰よりも自分に言い聞かせている。

「悠介は世界一の選手になれる。五輪は証明する場所だ」。東京五輪の得点王を狙う(林田晴樹)(敬称略)



日本選手権決勝で敵陣に攻め込む悠介(2019年10月、東京辰巳国際水泳場で)



初詣で訪れた神社で記念撮影する(左から)朱里、晴香、悠介、航平(2019年1月、富山市で)

◆稲場悠介(いなば・ゆうすけ)2000年4月生まれ、富山市出身。富山北部高から通信制の第一学院高へ編入。19年に新潟産業大へ進み、同時にブルボンKZに加入した。モンテネグロやルーマニアのクラブでもプレー。ポジションはサイドから攻守を組み立てるドライバー。1㍎80、80㍎。

◆航平(こうへい)1996年1月生まれ。富山北部高、筑波大(茨城)を卒業。2018年にブルボンKZへ加入、製菓大手ブルボンの契約社員でもある。セルビアのク

ラブでもプレーし、豪州クラブでのプレーも決まっている。ポジションはドライバー。1㍎78、80㍎。

◆朱里(あかり)1998年2月生まれ。堀川中(富山)、秀明英光高(埼玉)を経て秀明大へ進学。2016年のリオデジャネイロ五輪出場を懸けた予選に、高校生で唯一出場した。ポジションはドライバー。1㍎64、60㍎。

◆晴香(はるか)2002年4月生まれ。堀川中を卒業後、富山北部高へ進学。18年には17歳以下日本代表に選ばれた。ポジションはゴールキーパー。1㍎67、50㍎。